

津田正夫

私はNHKの報道現場でドキュメンタリー番組などのディレクター、開発のプロデューサーをやってきました。その後世界各地の市民とメディアの調査や日本への紹介、全国で市民・住民・NPO・学生によるメディア参加を支援する活動や、地域メディアを使ったまちづくりに取り組んできた中から、市民メディアの独自の表現の方法、市民とメディアがどうしたら適切な共生関係に近づけるかなどをテーマに研究しています。
<http://www.media-access.org/> や <http://kyoto.cool.ne.jp/tsudazemi05/> (津田ゼミホームページ) を参考にしてください。

1. 専門演習の目標

- ・映像ジャーナリズムが登場した歴史的／政治的／文化的背景を学ぶ
- ・映像報道やドキュメンタリー表現の際立った特性、課題を理解する
- ・市民による斬新で独自の表現、新しい映像世界の可能性を実践的に調査・研究する

2. 専門演習で扱う課題と内容

TVや新聞が地盤沈下しマスメディアやジャーナリズムありかたが急速に変わりつつある。既存の価値観や秩序に依存したメディアや表現方法が行き詰まり、さまざまな媒体を使った新しい表現が模索されている。特に映像を使った表現・伝達・コミュニケーションの変容は目覚ましく、マスメディア的秩序を揺さぶっているだけでなく、従来の政治／文化／生活のありかたまで影響を与えつつある。世界各地でも日本でも、市民が多様なメディアを活用してさまざまなメッセージを発信しはじめている。アメリカでは市民は1000ものテレビ局を持ち、ヨーロッパ・台湾・韓国でも市民が公共放送をつくっている。日本でも市民テレビ局やまちづくりSNSがあふれてきた。

映像による報道や表現の思想と技法、その歴史的／政治的／文化的背景を学びつつ、これからの市民社会にふさわしいメディアのありかた、市民がつくるジャーナリズムやドキュメンタリーの可能性や課題を実践的に学ぶ。

3. 授業の進め方・内容

3回生では、映像ジャーナリズムやドキュメンタリー表現の歴史や技法に関する基礎的な学習を行ったあと、「研究コース(歴史研究や作品研究)」と「実践コース(実際の制作)」に分かれて、具体的なケースワークに取り

組む。秋以降、共同での研究発表を行っていく。4回生では、3回生での課題をさらに深めた卒業研究・卒業制作に取り組む。

4. 必要とする知識

特になし

5. 関連する分野・科目・知識

ジャーナリズム

映画・映像

市民メディア

6. テキスト・参考書・機材(受講生が標準的に持つもの)

今橋映子『フォト・リテラシー 報道写真と読む倫理』(中公新書)

津田正夫・魚住真司編『メディア・ルネサンス 市民社会とメディア再生』(風媒社)

津田正夫・平塚千尋編『新版 パブリック・アクセスを学ぶ人のために』(世界思想社)

ハルバースタム『メディアの権力(上)(中)(下)』(サイマル出版会)

港千尋『映像論』(NHKブックス)

村木良彦ほか『お前はただの現在にすぎない』(田畑書店)

7. 独自に付加する選考方法

志望者はガイダンスかオフィスアワーのどちらかに出席のこと(志望者が多い場合、面接を実施することもあります)。

8. 受講生に望むこと

ジャーナリズムやの映像表現ありかた、メディアと市民の関係などについて関心が強い人を望みます。人間が好き、好奇心が旺盛な人は面白いと思います。